

まぶしい夏

環状線から港へ続いている
橋を渡って行けば海が見える
車のラジオにスイッチを入れて
流れる曲と口ずさむ懐かしいメロディー

少しセンチになってため息ちよつとした
海の碧さはそのままに僕を包む

汽笛を鳴らして遠ざかる船に
手を振って見送る少年の横顔
澄み渡る空と潮風をうけて
海岸線を走る夢を乗せて

大きな地図広げて見知らぬ街と出会う
不安と期待が胸を熱くさせる

きっと明日も晴れるどんな時も笑顔で
手のひらかざしてまぶしい夏が

きっと明日も晴れるどんな時も笑顔で
手のひらかざしてまぶしい夏が



風のワルツ

風の吹く街角で、君と出逢った
いつも空見上げて 君と踊った

ある日君のもとへ 天使が訪れて
約束だからと 天に召された

流れ星は 思い出の メロディー
風音は 悲しみの ララバイ

ああ 君は 僕のすべてだったよ

涙が止まらない 何も見えない
心がさしんで 星ももらい泣き

流れ星は 思い出の メロディー
風音は 悲しみの ララバイ

ああ 君は 僕のすべてだったよ

風の吹く街角で、君と出逢った
いつも空見上げて 君と踊った



夕暮れ

夕暮れ君の影を踏み 揺れる黒髪金色に
透き通る風はささやき 連なる山は光って
君の頬は紅色に

響き合う心抱きしめて 流れる時は永遠に
君の頬は紅色に



あの日に戻れない

さりげない仕草がたまたま好きなんだと
きみにささやいたあの日のときめきはもう

君が欲しいんだ叫んだこともあった
あふれる思い出があまりにも寂しすぎる

どんな時も二人で支えあってきたのに
失った愛が今も僕は信じられない
あああの日にはもう戻れない

夜が恐いと僕に抱きついてたね
君の温もりが体を熱くしてた

微笑むその顔は何故か悲しい目をして
何も言わずに涙がにじんでいたね

どんな時も二人で支えあってきたのに
失った愛が今も僕は信じられない
あああの日にはもう戻れない

どんな時も二人で支えあってきたのに
失った愛が今も僕は信じられない
あああの日にはもう戻れない

SKY

SKY 青空に
WING 翼広げて
WIND 風になれ

どんな時にも あきらめないからと
熱い視線で 僕に誓ったけど
空を見上げて 涙こぼした くじけそうになる
泣かないで

SMILE 微笑んで
FEEL 感じてたいから
HOLD 抱きしめて

顔を揚げてさ 本当の気持ち聞かせて
黙ったままじゃ なにもわからないから
不安つららせ 見失ってる顔曇らせて
駆け出した

SHINE 輝いて
FRIEND 友達だから
SING 歌ってよ

何度でもいい やり直せるから
明日を信じて
飛び立とう

SKY 青空に
WING 翼広げて
WIND 風になれ
WIND 風になれ

銀河鉄道の夜

西の空が赤く燃えて 雲はオパール色
路地に咲いた銀のコスモス 天を仰いだまま
ああ一番星が煌めく 月は近づいてゆく
ああ銀河の腕君を抱きしめ 夢のランデブー

君と出会った 本当の意味を知る
どんな時でも 君を守ってあげたいと
いつも

地平線が時を見送る 風は桔梗色
神秘奏でる 巡る天球 君からの贈り物
ああ 指先が光なぞって 星に語り始める
ああ ヘルセウス アンドロメダの 愛の物語

君と出会った 本当の意味を知る
どんな時でも 君を守ってあげたいと
いつも

君と出会った 本当の意味を知る
どんな時でも 君を守ってあげたいと
いつも いつも いつも

スイート ハート

気づった顔した 今夜のパーティー似合わないけどね
赤いマニキュア セクシーだなんて おどけていたけど
踊り疲れた二人は いつの間に眠りに 甘い夢見て
あっという間に 眩しい朝が 片目つぶったまま
タバコ吹かしてブラックコーヒー ほろ苦いけどね
ありきたりの毎日が退屈に思えてくる
ずっとこのまま

優しさに包まれながら 気ままに時に 揺られていたい
透き通る君の心が 僕の胸に 重なり合って
すべてがひとつに溶け合ってく 二人 スイート ハート

下手なジョークで困らせないで くだらいけどね
黙っていても君の気持ちはよくわかるけどね
ふざけ合っているも げげんそうな顔になる
ずっとこのまま

優しさに包まれながら 気ままに時に 揺られていたい
透き通る君の心が 僕の胸に 重なり合って
すべてがひとつに溶け合ってく 二人 スイート ハート

優しさに包まれながら 気ままに時に 揺られていたい
透き通る君の心が 僕の胸に 重なり合って
すべてがひとつに溶け合ってく 二人 スイート ハート



童夢

タイムマシンに乗って 時をふわりと
過去と未来の中へ 彷徨って

カシオペア横切って 神秘の中へ
なつかしい思い出が 流れたすよ

mm 星空が mm 夜に溶けて
mm 夢の中 戻れない mm

柱時計の文字が ぼーとにじんで
黒い針はねじれて 悲しそう

あざみの花が揺れる 風もないのに
光の帯がそっと 見守ってる

mm 青空が mm 揺らめいて
mm 夢の中 戻れない mm



聖夜

メリークリスマス 天仰いで
舞い降りる粉雪 街中を包んで

メリークリスマス 祈り続けて
静寂のこの夜 奇跡起こして

世界中の人に愛を降りそそいで
その優しいまなざしで見守ってくれる光のマリア

メリークリスマス 耳すまして
ささやく天使たちの 歌声がきこえる。

世界中の人に愛を降りそそいで
その優しいまなざしで見守ってくれる光のマリア

メリークリスマス 耳すまして
ささやく天使たちの 歌声がきこえる。

メリークリスマス 耳すまして
ささやく天使たちの 歌声がきこえる。

オデッセイ

はるかな宇宙と きらめく星へ
青く輝く 地球は 遠ざかる
懐かしい想いは 心を巡り
吸い込まれてく 白い宇宙船

流星群の雨 軌道はそのまま
土星の環をくぐり 飛行をつづける

未来をめざして 君と駆け抜ける
夢を抱き続けて 銀河の果てまで

宇宙を彩る 幾何学模様
太陽風は やさしく見守って
高鳴る鼓動は 未知へのあこがれ
見えるすべてが 言葉にならない

オーロラが光る 冥王星の夜
オールトの雲へ 飛行をつづける

未来をめざして 君と駆け抜ける
夢を抱き続けて 銀河の果てまで

未来をめざして 君と駆け抜ける
夢を抱き続けて 銀河の果てまで



月宵人

吸い込まれそうな 大空に 高く 雲雀が 狂い鳴く
ああ 陽だまりに 陽炎ゆれて 届かぬ想いに 影を踏む

すみれ色した 夕暮れに 輝く金星 時を止めて
ああ かすみたつ 遠くの山に 恋人の名を 咬いて 頬を染める

鳥になれない 空になれない ほんとうの夢
花になれない 星になれない ほんとうの愛

月の光が 春風に かかる雲間と 君を映す
ああ 透き通る 露の雫に 願いを叶えてと 瞳を閉じる

春になれない 風になれない ほんとうの夢
雲になれない 月になれない ほんとうの愛

鳥になれない 空になれない ほんとうの夢
花になれない 星になれない ほんとうの愛
春になれない 風になれない ほんとうの夢
雲になれない 月になれない ほんとうの愛

